

2020/11/5

(うとQ世話し 超難問に直面す その2「情」)

「お金を手にする」「お金が欲しい」というのはどういう事なのか？

をちょっと考えてみました。

各人各様で諸説ふんぷん出てくるとは思いますが、自分の定義では

「お金」は「可能性の増大」とか「選択肢の幅の拡大」に置き換えられる気がしました。

可能性ですから万能ではないし絶対でもない気がします。

「金さえあれば何でもできる」とはよく耳にします。

「愛情さえも買うことが出来る」と迄言う方も。

でもそれは無理でしょう。相手は「愛しているふりをしているだけ」

お金の力はそこ迄でしょう。

また「お金があれば安心この上ない」という方もいらっしゃいますが、不慮の天災を前にしてお金は無力です。天災の後の復興には有効かもしれませんが。

なので、矢張お金は万能でもないし、絶対でもないのだから「可能性の増大」や「選択肢の幅の拡大」レベルの範囲だと思った訳です。

自分は、ことお金に関しては、それを得る才能も余りないようですし、お金の方でも自分を嫌って余り寄り付いてもくれない様なので、お金を求めるのはしばし脇に置いて、お金の効用を「可能性の増大」や「選択肢の幅の拡大」に置き換え、その視点から見て、お金の力に代わるものはないかと、探し始めました。

そこに現れてきたのが「人の力」という言葉でした。

と言っても知力や体力の事ではなく「未開拓の無意識界や潜在意識界の力」の分野です。

何でも人間の意識界、顕在意識界は未だ全能力の10%にしか過ぎないのだそうで。残り90%は未開拓、未踏の分野で眠ったままだとか。

以前の記事でも申し上げましたが「義理人情」の内「義と理」即ち上述の意識界、顕在意識界が、アタマ(知)の部分にあたるとすると「人」という天秤の軸にあたる身体を挟んだ反対側の「情」の部分が無意識界と潜在意識界にあたる事になります。

自分が直前の記事で「ニューノーマル発見のヒントは情にあり」と申し上げたのは、実はこの部分の力の引き出しを指しての事でした。

前回は紙幅の関係で端折りましたので、今回遅ればせながらご説明させて戴きました。

最後に「情」というとまだ説明が足りなさそうなので、今少し分かり易く申しますと「情」は英語の「heart」に置き換えた方が適切かもしれません。そうしてこの英語を使って「heart touching」と話を進めると、それを逆和訳して「心の琴線に触れる」

その時にこそ金力を凌ぐ爆発的な力が生まれるような気がしております。